



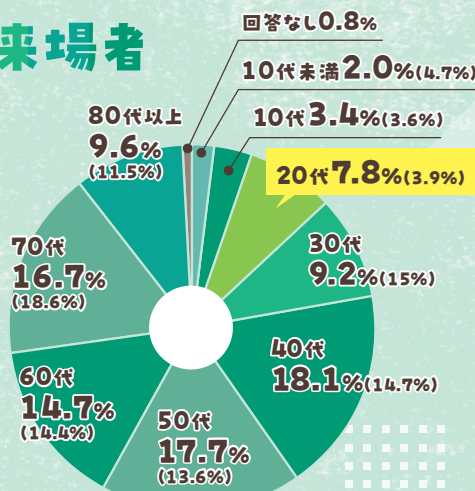
データで振り返るまちカフェ！～来場者アンケートより

2023年12月2日～12月10日にかけて行われた第17回町田市市民協働フェスティバルまちカフェ！（以下まちカフェ！）には、まちづくり、環境、文化、子ども、福祉、国際など多種多様なテーマを掲げる団体が参加し、ユニークな催しや活動発表を行いました。ここからは、まちカフェ！にお越しいただいた来場者の皆さんにご回答いただいたアンケート結果を元にまちカフェ！を振り返ります。

※まちカフェ！来場者アンケート：2023年12月2日～12月10日実施。計292名の方にご回答いただきました。データ1、2のカッコ内の数値は2022年度の数値です。

DATA 01 年代別にみた来場者

40代～70代は、ほぼ同割合の方にご来場いただいているのがまちカフェ！の特徴の一つですが、学生から提案があった〈Instagramで開催30日前カウントダウン投稿〉や〈長谷川ミラさんトークイベント〉を実施したこともあり、今年度は20代のご来場者の割合が昨年度の約2倍に。来年度も学生さんや若い方にも楽しんでもらえる施策を企画していきたいと思います。



まちカフェ！期間中の来場者数

合計 **8,533人**

- 内訳
- 12/2の市役所・市民ホール会場 **7,571人**
 - 12/2以外の市役所展示 **475人**
 - 12/2以外の市役所および市内各所開催イベント **487人**

イベント開催数

合計 **135件**

- 内訳
- 市庁舎・市民ホールで開催 **117件**
 - その他の会場で開催 **18件**
- ※協働でのイベント開催12件含む

DATA 02 まちカフェ！来場回数

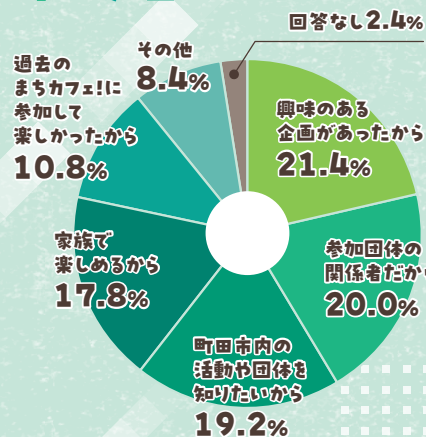
まちカフェ！に初めて来られた方が約6割と、今年も参加団体にとって新しい出会いの場になっていたことが分かります。2回目以上の方も昨年度より増えています。まちカフェ！を毎年楽しみにしてくる方が市内に増えていることがうれしいですね。



2回目以上の回答114件
2回:52% 3回:25% 4回:8% 5回:10% 6回:4% わからない:1%

DATA 03 まちカフェ！来場理由

企画や団体の活動内容に興味がある、参加団体の関係者等の理由で来た方から家族で楽しまれた方まで、バランスよくいらっしゃいました。親子でじっくり取り組めるワークショップなどの出展も多く、「もっとゆっくり来たかった！」「来年も楽しみにしています」といううれしい声もお寄せいただきました。



来場者の声

- 市の団体だけでなく地域全体で盛り上がっていることがとても伝わってきた。
- 人の多さと楽しそうな笑顔。次回も来場してみたいです！
- 参加型の企画が多く楽しそうでした。
- 普段出会えないモノや人達に会えて楽しかったです。
- 人がたくさんでいろんな団体さんが参加されており、町田っていいなと思いました。

本誌に掲載できなかった来場者アンケートの全データは、右記の2次元コードのリンク先で紹介しています。2024年度のまちカフェ！開催については詳細が決まり次第、本誌でもご案内します。どうぞご期待ください。 →



一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

✉ info@machida-support.or.jp

☎ 042-785-4871 月～金 午前9時から午後6時
(毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

● JR横浜線町田駅から(徒歩約5分) 小田急線町田駅から(徒歩約8分)

● お車で越しの場合は近隣の駐車場をご利用ください

相談
無料

事前
予約制

公式SNS 更新中



www.machida-support.or.jp



Now

WAM助成応募説明会を開催しました

Topics

まちカフェ！参加団体の事例から探る
イベント参加を団体運営の活性化につなげる
3つのヒント

Information

データで振り返るまちカフェ！

Now

近況報告

WAM助成応募説明会を開催しました

1月11日(木)、まちカフェ！オープンデー特別企画として、独立行政法人福祉医療機構(WAM)が実施するWAM助成の応募説明会を実施しました。毎年恒例の開催となっている本説明会、当日は対面・オンラインのハイブリッド開催で、オンライン34名、対面12名の方にご参加いただきました。

まずはサポートオフィスの喜田より「助成金とは？」と題し、市民活動の財源の全体像や応募から助成後までのプログラムの活用方法、申請書を書く際のポイントをお伝えしました。その後WAM助成担当の森健太氏に、WAM助成プログラムの内容や申請に向けての留意点をご説明いただきました。

質疑応答のあとは、申請書の書き方ワークショップと個別相談タイムを実施。一方的に説明を聞くだけでなく、説得力のある申請書を書くために必要となる具体的なステップを学び、実際に申請書の骨子を書き出す時間をとることで、助成金申請に向けて団体内で検討すべき点を明らかにすることに焦点を当てた説明会となりました。

▲助成金説明会の様子。説明会以外でもサポートオフィスでは助成金に関するご相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。

Voice 参加者の声

助成申請書作成のポイントを学ぶプチ講義のあとに、実際のWAM助成の内容を伺えたので、申請のポイントを押さえて聞くことができました。

WAM助成の目指されたい姿を直接お伺いすることができ、当団体が考えていることとの間をどう整合させていくかの理解が深まりました。

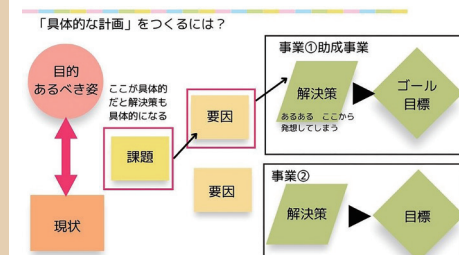
本誌では掲載しきれなかった参加者の感想などはこちらからご覧いただけます。 Check! →



MEMO

具体的で説得力のある申請書を書くには

助成プログラムへの申請で皆さんの頭を悩ませる〈申請書〉。本説明会の中で行われたプチ講座「助成金とは？」では、具体的で説得力のある申請書を書くには、「**解決策**」(やること・実施内容)の検討だけに注力するのではなく、課題(あるべき姿と現状のギャップ)とそれが起きている要因と**解決策**がつながっていることが大切であること、さらにその**解決策**に取り組むことで**助成期間中に達成したい目標を具体的に設定**することがポイントであることをお伝えしました。



まちカフェ！
参加団体の
事例から探るイベント参加を団体運営の
活性化につなげる

3つのヒント



町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」(通称 まちカフェ！)は、市内で活動するNPO、市民・地域活動団体、ボランティアなどが実行委員会を組織して開催するイベントです。2023年12月2日より開催した第17回まちカフェ！は128団体が参加し、盛大に開催されました※。今年度も出展を機に、他団体と共に企画を立てたり、ITスキルの向上に挑戦したりする団体が生まれました。通常の活動をしながらイベント等に参加するのは、手間も体力もかかります。一方で平常時では達成できないつながりづくりや今後の活動に活力となるアイデアを取り入れる機会にもできます。ここからは、イベントの参加を団体運営の活性化につなげるヒントを、まちカフェ！参加団体の事例からご紹介します。

※第17回まちカフェ！の開催状況は裏表紙でも紹介しています。

ヒント
01

ベニーズイングリッシュクラブ / 絲子～ito.ko～

**イベント参加は、新しいチャレンジの場。
単独ではなく、コラボ出店も視野に入れて！**

まちカフェ！で
やったこと

親子ふれあいイングリッシュ
～クリスマス★まちカフェ！スペシャル

英語を楽しむ親子イベントを企画していたベニーズイングリッシュクラブは、参加団体でもあるレザークラフト作家、絲子～ito.ko～を迎え、クリスマスパネルシアターや英語のクリスマスソングに合わせて親子で遊べるレザー製サンタ指人形の制作を実施。絲子と相談を重ねてできたかわいいサンタを使ったクリスマスソング遊びも大好評でした。



自団体だけでイベント企画のアイデアに変化を持たせるのが毎回の課題でした。でも今回、絲子と**まちカフェ！実行委員会(※1)**で知り合い、絲子の素敵なレザーアイテムを使ったワークショップを実現できたことで、**企画の新たな芽を見つけることができました**。開催に向け応援あったり、双方のSNSで告知ができたりと、一緒にやるのがこんなに楽しいのかというのも新発見でした。

●お話を聞かせていただいた方：ベニーズイングリッシュクラブ 橋本奈央子さん

ベニーズイングリッシュクラブ
小山地区を中心に、英語に触れながら地域の子育て仲間との交流を深める親子ふれあいイングリッシュを実施している。



絲子～ito.ko～

レザークラフトを通じて手づくりの楽しさを地域で広めており、販売だけではなく革小物づくりのワークショップも行っている。

ヒント
02

NPO法人目と心の健康相談室

**イベント参加はITスキルの向上と
他団体との出会いが生まれるいい機会！**

まちカフェ！で
やったこと

専門家による目の悩みに関する無料相談・
視覚障害者のためのダンス体験会

通常は電話相談で行っている相談を対面で実施。看護師らによる相談は、目だけではなく相談者の心の在り方にも寄り添うアドバイスを心掛けました。また目が見えにくい・見えない方もできるソーシャルダンス体験も行い、来場者のみならず、視覚に障害を持つ方々が所属しているまちカフェ！参加団体も参加し、にぎやかな時間になりました。



学生おうえん隊(※3)を受け入れ、一緒に企画を立てたり、広報をしたりしました。特に今までなかなか挑戦できなかったInstagramを使ったイベント告知ができるようになったので、これから新しい方との出会いが増えることを期待しています。またイベントは他団体と知り合える絶好のチャンス。まちカフェ！では、目に関する素晴らしい活動をしている団体との出会いがあり、今後の活動につながりそうです。

●お話を聞かせていただいた方：
NPO法人目と心の相談室 荒川和子さん

NPO法人目と心の健康相談室

目の不調は心のケアが重要であるという考えから、目に関するお困りごとに、眼科勤務歴の長い看護師や眼科医らが回答する電話相談やイベント等を実施している。

ヒント
03

(一社)Dフレンズ町田／町田市いきいき生活部高齢者支援課

**自団体の活動のPR対象者は
来場者だけではなく。出展者同士の
つながりを今後の活動に活かす！**

まちカフェ！で
やったこと

「認知症とともに生きるまちづくり」を知ろう！
缶バッジワークショップ

認知症に関する啓発活動をしているDフレンズ町田が町田市いきいき生活部高齢者支援課と協働し普及をすすめている「認知症の当事者と作った16のまちだアイ・ステートメント」。この取り組みをPRするために、アイ・ステートメント缶バッジを作るワークショップを実施。楽しみながら認知症についての理解を深められるとたくさんの方にお越しいただきました。



他団体のブースに缶バッジの台紙を置いてもらい、こちらのブースには協力団体のチラシを置き相互に案内を実施。認知症とともに生きるまちづくりを実現するには、多様な課題に取り組む団体にも自分ごととして捉えてもらいたいと願っていたので、つながりたかった子育て世代や若者を対象とした団体と出会

えたことが収穫でした。事前に参加団体向けにアイ・ステートメントを知るワークショップを開催したことや**まちカフェ！オープンデー(※4)**を活用して事務局と密に相談できたのもよかったです。

●お話を聞かせていただいた方：
永島 匡さん

まちだアイ・ステートメントについてはコチラ！



(一社)Dフレンズ町田

「認知症とともに生きるまち」の実現を目指し、さまざまな職種や団体と協力しながら事業やイベントを実施している。



まちカフェ！用語解説

上記の事例でも出てきた

まちカフェ！ならではの

4つの取り組みを紹介します。

※1 まちカフェ！実行委員会

まちカフェ！参加団体や**おうえん隊(※2)**で構成され、主にまちカフェ！の企画・運営を行っています。2023年度は準備会を含め、11月までに計4回の実行委員会が行われ、交流や企画立案のワークショップを実施しました。

※2 まちカフェ！おうえん隊

まちカフェ！の企画・運営に参加したいと手を挙げたボランティアスタッフを指します。「できる時に・できることを」を合言葉に事務局と共に運営のサポートをします。数時間から参加できるワンティおうえん隊もスタートし活動の輪が広がっています。

※3 まちカフェ！学生おうえん隊

※2で紹介したまちカフェ！おうえん隊の学生部門のこと。単なるお手伝いではなく、団体や地域のニーズを捉えた企画立案と実行を行っています。2023年度は25人の学生が受入れを希望する9団体と共に約半年間活動しました。

※4 まちカフェ！オープンデー

「まちカフェ！終了後も地域活動の輪が市内に広がっていくといいな」という実行委員会の中から出た意見が出発点となった取り組み。サポートオフィスの職員が月に1回、市役所の市民協働おうえんルームに出張し、地域活動全般の相談や講座等を実施しています。

開催日や
最新情報は
こちら！

